



教育委員会を訪れ、本を寄贈した齊藤さん

「見えない未来」へ、小説本を寄贈

齊藤輝代さんが執筆、読者5人にもプレゼント

作家として活動している齊藤輝代さん(古閑)が10月27日、短編6作で構成された自筆の小説本「百年の綿菓子」を町内各小中学校と町図書館に寄贈しました。

小説にはさまざまな年代の女性が、記憶のゆらぎの中で未来に向け新たな人生の一步を踏み出す姿が書かれています。齊藤さんは「どんなに苦しいことも、いつかは解決し思い出が変わります。明るい未来が待っているということを伝えたい」と本に込めた思いを話しました。プレゼントは16ページをご覧ください。

親子で童話の世界へと入り込む

図書館まつりで児童文学作家の講演会

10月25日、ミナテラスで行われた「図書館まつり」で、児童文学作家あんびるやすこさんの講演会が開かれ、親子連れなど約100人が参加しました。

参加した子どもたちは、事前に配られていたエプロンに思い思いの飾りを付けて来場すると、本の主人公気分で記念撮影を行っていました。また、講演会では、代表作「ルルとララ」の制作にまつわる裏話などがスライドとともに披露され、親子ともに真剣な表情で童話の世界に入り込んでいました。



親子連れでにぎわった図書館まつり



作品展を開いた米原さん(右は妻の博美さん)

絵を描き続けて15年、作品展開く

米原博文さんが絵画などを展示

ミナテラスで11月1日～5日、米原博文さん(南)が15周年記念作品展を開きました。

会場には絵画のほか、自作の板絵や能面、米原さん主宰の陶芸教室の生徒作品など約200点が所狭しと展示され、訪れた人たちの目を楽しませました。

5年前に大病を患い、余命2年を告げられたという米原さんは、「趣味を持っていたから元気を取り戻すことができました。作品展を開けたことは夢のようで、すべてに感謝しています」と優しい笑顔で話しました。

Best Smile

今月のベスト笑顔

